

第1回 たばこ対策推進委員会 議事要旨

日時：平成24年7月31日(火) 14:30～16:30

場所：奈良県庁北分庁舎1階11会議室

出席者：

(委員)荒川直樹、高橋裕子、富森裕美子、槇野久春、山口巖(五十音順)

(事務局)郡山保健所 増田佳美、桜井保健所 堀内香余、葛城保健所 井伊貴子、
吉野保健所 巽友美

健康づくり推進課 松山仁志、橋本安弘、大原賢了 他

概要：

○委員長として、槇野久春委員を選出。

(以下、主な意見・質問、(→)は事務局発言)

(1) <議題1> 県の喫煙に関する現状と課題について

○H22年3月からH23の直近値でかなり喫煙率が下がっているが調査方法が大きく変わったということはないのか？

→調査方法は今回(H23)と前回(H19)の2回は国民健康栄養調査の地区を拡大して県民健康栄養調査として実施し、ほぼ規模も一緒、質問項目も合わせた。

前回の調査は計画書として出たのがH22年3月だが、調査年はH19年秋だった。

○調査年を記載した方が良い。

○奈良県の喫煙率は、全国で2番目に低いという良い成績、全国1位の県は？

→島根県

○調査で、喫煙者とは？1本吸う人、100本吸う人も喫煙者。

→習慣的に吸っているかどうか聞いている。吸っている人には本数も聞いている。

○未成年者の喫煙率、妊婦の喫煙率、たばこと健康問題に関する知識についての項目について、現状値未把握で評価困難としているが、今まで行ってきた対策の評価をきちんとし、変化を見て、今後の対策を考えるのに必要であるため、調査を実施して現状値を把握すべきである。

未成年者については、全校調査が難しいようなら、モニター的に調査をしてみてもどうか。

→検討する。

(2) <議題2> 今後のたばこ対策について
第二期奈良県健康増進計画の方向性について

- 成人喫煙率の低下について、具体的数値目標が入ったことを評価する。
- 成人喫煙率の低下については、目標値の考え方(国と同じく禁煙希望者が禁煙した場合の割合を減じた値)で良い。わかりやすい。
- 禁煙希望者が禁煙できることを目標とするなら「禁煙支援ができる医療機関が増える」や「禁煙方法(治療等)を知っている人が増える」も指標に加えてはどうかという、計画策定ワーキング会議での意見については、「医療機関の数が増える」という指標より、「禁煙支援ができる医療機関を知っている人が増える」とした方が良い。
- 受動喫煙防止(施設の禁煙化)
行政機関、医療施設、教育施設は敷地内禁煙100%とする。行政機関が禁煙を徹底しないと職場等に物が言えない。
- 受動喫煙防止(受動喫煙の機会を有した者の割合の低下)
家庭、飲食店の目標値の考え方(国と同じく受動喫煙の機会を有した者の割合に禁煙希望者が全て禁煙した場合の割合を減じ、それを半減する)でよい。
職場について国は具体的な数値目標を出していないが、県は家庭、飲食店と同様に数値目標を入れたほうがよい。
- 奈良は観光地でもあり、旅館やホテルの目標が必要ではないか
→現状値の把握ができていない。、今後調査するか検討する。
- カラオケやボーリング場などの遊技施設についても入れた方がよいのではないか
→遊技場(ゲームセンター、パチンコ、競馬場など)については23年の県民健康栄養調査で把握している。現状値8.6%と低い。目標項目に加えるか検討する。
- 妊婦、未成年者の目標は喫煙率0%でよい。
- 未成年者の喫煙対策として、「喫煙防止教育を実施している学校の数」についても指標として加えて欲しい。現行では、薬物・飲酒・たばこの3つの分野のうち、いずれか一つを実施していれば良いことになっているようだ。
目標としては「喫煙防止教育を実施している学校の割合100%」
→指標として入れるなら、現状把握のための調査が必要。検討する。
- 路上喫煙防止条例など条例を制定している自治体の数や啓発に積極的に取り組んでいる自治体の数を指標に加えてはどうか。
→加えるかどうか検討する。

以上